

国語科部会

研究主題 思考力を育てる言語活動の指導研究

～読み・考え・表現する授業づくり～

1 主題について

昨年度より扱う領域や単元に制限を設けないことを確認しつつ、本主題での実践は6年目を迎える。身に付けるべき力を具体化した初年度に端をひらき、手段としての言語活動の在り方についてある程度の形を示そうとする段階に来ている。その共通認識に立って主題を継続した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（田代中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月29日（火）
- ・会 場 田代中学校
- ・学習材名 1年「言葉を豊かにしよう」
- ・授業者 小坂亜紀子



【生徒の発表に全員が耳を傾ける】

① 授業者から

- ・1年生の教科書に「言葉を集めよう」の章があり、「MY言葉ノート」と称して、メモ帳に授業で押さえた言葉や自分で気に入った言葉を書き留めていく活動を続けてきた。風の音を表す表現を複数挙げ、それを強弱に並べ替える活動や、雨の音を表す言葉を集めることなどが一例であり、語彙を豊かにし、語感を磨くことをねらいとしている。
- ・俳句を使い、伏せ字の部分について考えるという授業を行ったが、生徒たちはこれまでの知識や経験をもとに多くの言葉を出して思考していた。また、根拠をもって話し合うこともできており、いずれは「はらっぱ」等の詩の創作につなげていきたい。

② 協議

- ・文脈から言葉を想像する学習活動において、「MY言葉ノート」の活用は大変有効であった。授業時間内に帯単元として扱っているようだが、ノートを見ても用例や類義の言葉がまとめられてあったりと、これまでの取組の成果が見てとれた。
- ・思い付く擬音語や擬態語を挙げ、授業も活動的であったが、身に付いたことをどう自分の表現に生かしていくのか。そのための言語活動を設定する必要があるのではないかと。
- ・生徒からは多くの言葉が出されたけれど、本時のねらいは答えの当り外れではない。自分の考えた表現と他者の表現との比較の時間をもっと確保してもよかった。
- ・伏せ字の部分を考えさせるという活動は子どもにとって魅力的であると感じた。ゲーム的要素も含みながら、学習に向かわせるとてもいい仕掛けであった。子どもの瑞々しい感性

が光る発言も多く、参観者も課題に引き込まれそうになるほどであった。

- ・ねらいに「比較」という言葉があるので、比較の視点を明らかにする必要があるのではないか。「ヒラヒラは乾いている感じ」「ひらひらは湿り気のある感じ」という生徒の発言に焦点をあて、ニュアンスの相違などについて、話し合いを深めていく場面を設定してもよかった。
- ・全員に同一の辞書を使わせる必要があるか。辞書によって表現や意味そのものが異なる場合もあり、その意味の違いについて考え、より適切な表現を選択していく活動があってもよいのではないか。いろんな辞書をみて面白いと感じることも語感を磨くことにつながっていく。
- ・3つの俳句が学習材として提示されたが、1つ目をモデルとして全体で扱い、2つ目以降のものをグループ活動で扱ってもよかった。
- ・最終的に黒板にこれだけの言葉が出されている。一つ一つが生徒の思考により導き出されたものであり、この時間内にも語感は磨かれ、語彙は豊かになっていると言える。生徒の語彙を豊かにさせるのは、こういう活動の積み重ねがあるからだと感じた。

(2) 指導助言（山口 史人 指導主事）

- ・学習指導要領にも「語感を磨くためには、さまざまな読書を通して～」(P41)とある。子どもたちの出会った言葉を蓄積する活動が習慣化しているのは、生徒の言葉にこだわる姿からも窺うことができた。「MY言葉ノート」の活用は大変よい。
- ・辞書の活用場面がたくさんあった。言葉の意味は自分のイメージと異なる場合がある。「語彙」とは「語句」と同義ではなく、「その人が集め、身に付けた言葉の全体」を指すのだが、効果的に辞書を活用することにより、それは豊かになっていく。
- ・グループ活動について、伏せ字の正解を一つに絞らせる活動ははたして必要であったか。根拠となる生活体験やイメージが異なるので、絵や写真等、イメージを共有化する何かがあれば難しいだろう。鑑賞文を提示した上で、「読むこと」の領域(ア)とリンクさせて行うことも方法の一つである。
- ・前半は語感を磨く活動が中心で、後半は言葉を用いた短文を作成する活動であったが、前半で広げた活動をあたりまえの活動で終わらせてしまった感がある。単位時間を通して前後半のつながりを考える必要があり、言語知識にかかる部分は別の時間に設定してもよい。
- ・生徒にもっといろんな考えを出させたい。表現の違いに気付かせ、比較させ、意見を交換させたい。言葉の意味やイメージをもっと子どもたちから述べ合う活動があれば語感を磨くことにつながっていく。比較することは、読みでもその他の活動でも有効な手立てである。今日の生徒の発表を見ても、そうした授業は可能であった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・本時の斬新な授業展開だけでなく、言語感覚を磨くための日常的な実践の積み重ねも垣間見ることができた。また、新教材の扱い方について、学習シートや指導案等の資料を持ち寄り、互いの実践を開き合うことができたのも成果である。

(2) 課題

- ・部員間による指導案検討会の日程調整が難しかった。授業者任せにせず、実践を共有化するためにも次年度は開催を積極的に検討していく。